

防災会は四年目を迎え、新しい役員が決まりました。皆様の紹介を特集いたします。
防災の知恵シリーズ：今回は「お年寄りのための防災」です。

会長就任に当って：

岩本前会長の後を受け今年度の会長職を務めることになりました。当防災会は平成18年度より活動を開始してから今年度で4年目になります。お陰様で私達の活動も住民の皆様方のご理解とご協力により地域に定着してまいりました。特に自治会役員の方々には防災会幹事としてここまで多大なるお力添いを頂き厚くお礼申し上げます。

私達の活動の柱は大きく二つあり、その一つは防災意識の高揚と防災知識の普及で、具体的な活動としては、講演会の開催、防災心得の発行、防災訓練、防災ゼミナールの開催等があります。もう一つの柱は、防災組織づくりとその充実化で、具体的には、近隣ネットと避難施設運営組織の構築があります。近隣ネットは「隣近所の助け合い組織」であり、高齢化が進む片瀬山には大変重要な組織であります。しかし、大地震発生時のいつときは、自分の身は自分で守るしかありません。その手段としては一人ひとりが日頃から備えておくことが何より必要です。災害弱者といわれる方々がいざという時にも安心していただけるような、環境・組織づくりを目指したいと思っております。（4丁目 吉田 俊昭）



片瀬山防災会に思うこと：

昨年は片瀬山防災訓練のリーダーを仰せつかり、住民の皆様のご協力が無事終わることが出来ました。現役中は地域社会にお世話に成りっぱなしで、近隣の方々とも小生自身お付き合いもせずに来ましたので、退職後どの様にお付き合いをしていけば良いのか考えていた所へ、5丁目の佐藤英樹様に上手に防災会活動へ誘われ、いつの間にか防災会活動を通して地域社会に軟着陸出来た事を喜んでおります。

先日「新潟県中越沖地震」を経験された柏崎市松美町内会の関矢会長の講演会を聞く機会があり、そのお話の中に「近隣住民同士、様々なサークル活動で知り合った人々が、いざと言う時大変強力な助け合いになった」とのお話を聞き、片瀬山も近隣ネットを立ち上げている最中であり、方向性に間違いが無い事を実感しました。これからの片瀬山防災会もいざと言う時の為、近隣同士仲良く、楽しい生活が出来る場にしていけば、自然に良い片瀬山防災会になるのではと考えるこの頃です。（3丁目 泉谷尚信）

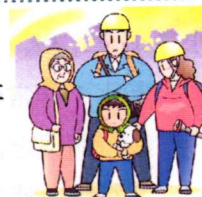


防災会の片隅で：

防災だより編集のお手伝いに加えて、昨年からは毎月の定例会のための資料の準備、議事録の作成・配布などが私の主な役割となっています。

防災会発足の年に当時の自治会の防災部長としてこの会の一員となりました。

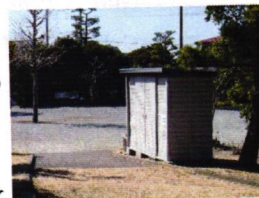
以来3年間、「やるからには楽しく」「出来ることを少しずつ」を心がけながら、そして「どうか大地震が来ませんように！」と祈りながら、今日に至っています。（4丁目 鈴木篤子）



防災倉庫の現状は？：

現在1丁目から4丁目の防災機材の現状は、残念ながら公園にある「公園愛護会」の倉庫や市民の家倉庫内に、極めて限定的な、また不揃いな内容で物品が収納され、その維持管理もなおざりにされてきたというのが実情です。

5丁目は、昨年に宝くじ助成制度の自主防災組織育成事業からの助成により機材整備が進みましたが、他の丁目に関しては上述の現状であり、これを「救出用機材」中心での整備にすべく、20年度は各自治会のご協力を得て、必要な追加機材内容を把握しました。21年度は「市の補助金制度」の改訂内容が確認出来次第、自前倉庫の設置・機材の充実へ向けて各丁目の防災部長さんと活動を開始したいと考えております。（機材整備 3丁目 正田良一）



助け合い：

片瀬山防災会が発足して4年目、大規模自然災害に自助・共助（互助）の重要性を訴えてきました。平成20年秋に、「自分の身を守る→家族を助ける→他人を助ける→地域を守る」のともに助け合える組織＝近隣ネットを、片瀬山各自治会内の組織として整えることが出来ました。

災害による犠牲者0を目指して、安否確認、避難支援、救出・救護、初期消火など、災害時に必要な住民の活動を理解し、備えることを確認し合えた成果だと思えます。ご尽力いただいた方々に心から敬意を表したいと思えます。

「地域コミュニティ抜きに地域防災は無い」とある専門家は言っています。コミュニティ力を充実させなければなりません、高齢者主体の努力には限界があります。現役世代の方々の参加を是非ともお願い致します。（近隣ネット 金子照男）

近隣ネット
片瀬山防災会

地域の問題点：

地域の問題点を行政と共に考える“片瀬江ノ島まちづくり会”に参加しております。ここでも防災は重要なテーマで毎年色々な角度から話し合いがもたれ、昨年は防災機材倉庫がテーマとなりました。この倉庫は災害で怪我をした人や建物等の崩壊により下敷きになった人を救出するための様々な機材等（通常は担架、リヤカー、バール、ジャッキ、救急セット等）が保管されています。

そこで片瀬地区24町内会の役員の方に立会いのもとに現状を調査しましたが、倉庫の規模や機材の種類、管理状況が町内会によって大きく異なっていることが分かりました。地域のお祭りなどの行事に利用して点検しているところや防災機材の利用方法等地域の人達にも知ってもらうための会を企画しているところもありました。

一方、機材が奥の方に積み上げられているだけのところも見受けられました。災害時には救出も住民同士で行わなければならない事態が予想されます。まずは自分の地域の機材倉庫の現状を認識し、対策を話しあっていただきたいと思います。（5丁目 宇田川ルイ子）



防災の知恵：お年寄りのための防災

いざという時あわてないために、これだけはまとめて持とう防災5つのグッズ！

災害マニュアルや心得には、非常用持ち出しとしてたくさんの品物が紹介されていますが、その全部を揃え持ち出すことは大変な事だと思われれます。そこでとりあえず、小さくまとめ、とっさに持ち出せるものとして次の物を選びました。

- ①水・非常食（インスタント食品・チョコレートなど）
- ②持病薬と診療券のコピー
- ③行動・連絡先メモ（家族の名前と電話番号（2名程度）、避難場所）
- ④下着・タオル類・ティッシュなど
- ⑤貴重品（通帳・保険証の写し・現金など）



もしこれでも重すぎるようならば減らす、まだ余力があるようならば増やす…など試みてはいかがでしょうか？勿論、その他の必要なものは整理して、決められた場所に保管しておきましょう。

日頃の心がまえを忘れずに出来ることはやっておきましょう。

編集後記：今号で編集委員を終った稲村さんは「1年間楽しく過ごしました」と感想。3年近く会長を務められた岩本さん、役員の皆様へ・お疲れ様でした。



片瀬山防災会

発行：片瀬山防災会

〒251-0033 神奈川県藤沢市片瀬山4-1-7
電話：0466-25-3170（吉田俊昭）